

昭和三十三年度

幼稚園教育指導者講座の報告

玉越三朗

文部省主催の幼稚園教育指導者講座は、本年度は福島市立第一幼稚園（東日本）と香川大学学芸学部（西日本）でおこなわれました。東日本は八月十七日から二十日まで、西日本は七月二十一日から二十四日までそれぞれ四日間、各都道府県や大学から推薦された指導者または将来指導者として活躍されるかたがたによって猛暑も物とせず熱心に実施され、例年にない、よい研究成果が得られました。

研究主題は東日本、西日本とも同じで、第一班「指導計画を立案するにあたって、望ましい経験（健康を例として）の分析をどのようにしたらよいか」（指導計画）第二班「山・海・川・動植物・天体の美しさを觀賞する、および磁石、虫めがねなどを使って遊ぶ指導をどのようにしたらよいか」（自然）第三班「言語経験を豊かにするために、絵本の指導をどのようにしたらよいか」（言語）第四班「クレヨン・絵の具・粘土・砂などを使って、絵をかいたり物を

作ったりする指導はどのようにしたらよいか」（絵画製作）第五班「幼稚園の目的から考えて、現状をどのように反省し改善したらよいか」（幼稚園経営）でした。この研究主題は、幼稚園教育要領の不備な点や幼稚園教育要領に望ましい経験としてとりあげられているものうち特に研究を必要とするもの、指導内容として案外見逃されているもの、指導法を誤れば非常に危険を伴うものについて具体的に研究することとしてとりあげたものです。（ただし第五班だけは、幼稚園教育要領を離れて最近問題となりつつある幼稚園経営の諸問題、特に経営方針、事務処理および研修、物的環境の整備における園長、教諭の責任の三点をあげた。）

各班の研究の模様を述べることは紙数の関係で許されませんので、次にそのうちの第一、三班について述べることとしましょう。第一班指導計画班は、望ましい経験の分析をどのようにしたらよいかについて健康

の領域を例として研究するのですが、いうまでもなく幼稚園教育要領には、幼児の在籍全期間を通して指導計画は作成しなければならぬ、またそれはさらに年・月・週・日というように時間的単位によって具体的にされなければならぬと述べられています。（第三章指導計画の作成とその運営二、年・月・週・日単位の指導計画とその運営の前文二七頁〜二八頁）また望ましい経験は、三才・四才・五才それぞれの年齢に応じて異ならなければならないし、同じ年齢の幼児でも教育経験の違いや発達程度の違いによって違ってこなければならぬとも述べられています。（第二章幼稚園教育の内容二二頁）しかし実際には、それぞれの経験について年齢別にまた時間的単位によって具体的に示さないで、これは教師や幼稚園が自由にやるようにとされています。

そこで各園で指導計画を作成する前に、まずそれぞれの幼稚園の三才・四才・五才の幼児に望ましい経験、たとえば「手を洗う」経験についての程度（経験の深まり）と範囲（経験の広がり）まで与えているか、またそれは五月にはどの程度と範囲まで一〇月、一二月にはどの程度と範囲まで与えているか実態調査を基礎として都道府県ごとに事前に研究し、それをもとにして研究協議をすることとしたわけです。

研究はまず、望ましい経験を分析するということはどういうことをすることなのかと考えられ、次に分析するとどういう点が便利か、また指導計画を作る場合経験の分析はどんな役割になろうものかなどを考えてみることから始められました。

さらに分析する手順は、どのようにすると便利でまた間違いないく簡単にできるかについて、分析していく順序はどのようにしたらよいか、分析する場合どんな観点に立って分析するのが幼稚園では適切か、似た経験をどのように分類しておくか分析がしやすいか、分析する場合どんな点に留意する必要があるかなどについて実際各園で分析している実態をもとにして研究がおこなわれました。

最後に実際に健康の領域の一部分の経験について年令段階に応じた経験の程度、範囲について参加者によって分析が試みられました。

望ましい経験の分析は、指導計画作成上非常にたいせつなことで、幼稚園教育要領が示されてまだじゅうぶん研究がおこなわれていませんので、参加者は相当研究協議には苦心されたようでした。ことに幼稚園では従来あまり指導計画の研究が系統的にまた基礎的なものについておこなわれていなかったため、分析するということが

どういうことかとか、分析するときどんな観点に立って分析するのが適当かなどについてお互いに共通理解ができていないうらみがあつたようで、ことばの解釈などに相当時間がかかりましたが、この指導者講座の最終目的である、これらの研究問題の解決を通して指導者としての基礎的教養と指導能力をたかめるというねらいはじゅうぶん達成できました。(もちろんこれは第一班に限ったことではなく各班とも例年にならない成果でしたが)

第三班言語班は、従来全くとりあげられていなかった絵本を通して言語経験がどのように豊かにすることができかを研究テーマとして、絵本を喜んで見たり絵本について教師や友だちと話し合えるようにするにはどんな指導法が適切か、しかもその絵本の内容や性質に応じてどんな指導法をとつたらよいか、また絵本については最低どの程度の経験を与えたらよいか(できれば年令段階に応じて)、その重点はどこに置くのがよいのか、さらに幼稚園で使う絵本を選択する場合どんな点に気をつけて選択することが必要かなどについて研究協議がおこなわれました。

もちろん絵本は、幼稚園ではなくてはならない教材ですし、どの幼稚園でも備えています。しかしよく考えてみますと、案外

これが活用されていません。ただ見たい幼児に自由に見させておくだけで、教師が積極的に絵本について指導の計画を立てて指導する、ということとは少ないようです。これはこの時期に本を見る習慣とか本を扱う態度などをしっかりつけねばならぬという幼稚園の目標をじゅうぶん達成することができませんので問題として取り上げたのですが、新しい傾向の問題にかかわらず非常によい指導例や絵本についての幼児の興味関心についての実態調査の結果の資料などが持ち寄られ、それをもとにして活発に意見が交され、また貴重な体験が語られてこの方面の研究に大きな示唆が与えられました。しかもこれらの研究協議の結果は幼稚園で使われる絵本に今後大きな影響を及ぼすだろうと思われました。

以上二班のみについて簡単に述べましたが、その他のいずれの班も、今年も例年になく活発に意見が交され、かつその意見も研究問題と無関係な、あるいはそれたものが非常に少なく、四日間非常に有効に活用されたこと、および司会者を中心にして積極的に協議を進めようとした参加者の態度は、さきにも述べたように指導者講座としての目的をじゅうぶん達成したと信じます。